

○ 椋梨純枝*井澤尚子**長塚こずえ*³青木迪佳*⁴天羽教子*⁵ (*宇部短大**東京家政学院短大*³東京家政大短大*⁴長崎県立シーボルト大*⁵愛知女子短大)

目的 1997年度に実施した「高齢者の色彩と図柄の好み」の調査結果の内、図柄の好みを中心に、前9報まで報告した。本報告では色彩の好みを中心に検討すると共に、1987年以来実施した調査結果と比較し、男女の特性を明らかにする。

方法 対象：全国都道府県の健康な男女、調査期間：1997年度に実施した「高齢者の色彩と図柄の好み」の調査および、1987年以来実施してきた結果と比較する。調査方法：質問紙法面接調査（フェイスシート）、試料：カラーチャートJIS Z 80色、観察：JIS Z 8723。

結果 1995年（A群）と1997年（B群）との色彩嗜好、嫌悪色の相違を比較すると、男性は嗜好色、A群＝「0.9B, 4.8PB, 5.0PB」の順であったが、B群＝「3.8G, 4.8PB, N9.3」である。嫌悪色、A群＝「N1.2, 4.8R, 3.6YR」B群＝「N3.6, N1.2, 4.8Y」である。女性は嗜好色、A群＝「0.2P, 5.0P, 9.6PB」B群＝「4.4R, 2P, 5.0P」で、嫌悪色、A群＝「N3.6, N1.2, 3.6YR」B群＝「N3.6, N1.2, 4.8Y」である。A, B群との%の差の検定において有意差が認められた。高齢者の年齢による生活経験スタイルの違いによる変化が見受けられる。